

救急車利用実態調査等について

1 救急車利用実態調査

(1) 概要

救急医療のコンビニ的利用に対する具体的対応策を検討するため、平成 20 年 2 月 12 日から 1 ヶ月間の救急出動について調査した。

(2) 調査方法

救急出動（転院搬送、医師等搬送、資器材等搬送を除く。）を大きく「適正利用」と「不適正利用」に区分し、事案の発生場所、時間、患者の年齢等、利用者の構成及び不適正利用の要因を調査した。

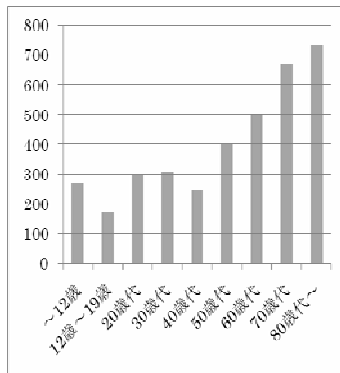
次の基準に従って、総合的に適正又は不適正の判断を行った。

- 症状が急激に悪化する可能性の有無
- 一般的にもわかる症状で傷病程度を区分（簡便な判断基準）
- 傷病者の生活環境を加味（独り暮らし老人、身体障害者等）

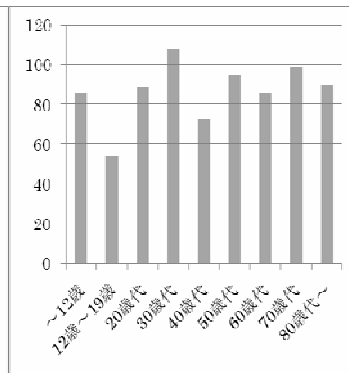
(3) 調査結果

- ・総出動件数 3,854 件中、不適正利用該当件数が 898 件（23.3%）であった。
- ・総出動件数では、70 歳代以上の利用が多いが、不適正利用件数では 20 歳代、30 歳代が前者を上回る。

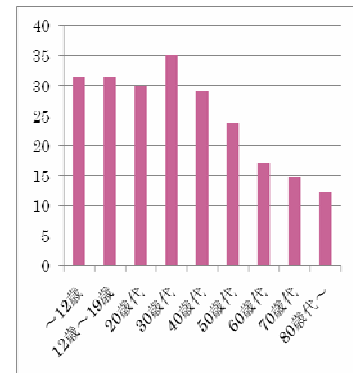
年代別総出動件数（件）



年代別不適正件数（件）



年代別不適正割合（%）



(4) その他

継続調査を実施（平成 21 年 2 月 9 日～3 月 9 日）

2 市民意識実態調査

(1) 概要

本市が平成 20 年 3 月、広島市に在住する 18 歳以上の男女 5,000 人を対象にしたアンケート

(2) 結果

本市が行っている救急車適正利用の PR について、「知っている」と回答した人は 35.2%であった。年代別でみると、20 歳代が 24.5%、30 歳代が 22.4%と低く、職業別でみると、事務職が 20.5%、学生が 20.4%と低い。

